

会 議 議 事 録

会議の 名 称	生命倫理委員会	日 時	平成24年4月19日(木)17:00~17:30
		場 所	大会議室
出席者	委員長：森村統括診療部長 委 員：柳田診療部長、内炭救急部長、岩井看護部長、 久保田外部委員 (書記)庶務係長		
議 題 及 び 討 議 事 項			
<p>【パーキンソン病に合併する姿勢異常に関する研究】</p> <p>受付番号：24-1 頁数：1頁～5頁 (申請者：神経内科医長 大江田 知子)</p> <p>申請者説明：パーキンソン病患者に合併する姿勢異常には、疾患関連性のものと、薬剤（ドパミンアゴニスト）関連性に出現するもののが存在する。本研究において、そのおのおのの頻度およびリスク因子を明らかにする。対象は宇多野病院診療中連続パーキンソン病患者約200名。各患者に研究概要を説明の上同意を得た後、自然立位での写真（側面、背面）を撮影し、頸部前屈角、腰部前屈角等測定の上、anterocollis（首さがり）およびcamptocormia（極端な腰曲がり）を定義する。また、ドパミンアゴニスト使用による姿勢異常出現歴の有無などの詳細な臨床情報を収集する。疾患関連性に出現する異常姿勢および薬剤関連性に出現する異常姿勢の各々について、その頻度および多変量解析を用いたリスク因子解析を行う。本研究は介入を伴わない観察研究であり、同意は口頭同意とし、その旨を診療録に記載する。倫理的事項としては個人情報管理に注意が必要である。</p> <p>審査内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・口頭でどのように説明するのか。 <p>→目的と方法を説明する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どのように説明したのかを残したほうがよいのでは。 <p>→説明文書を用紙して患者に渡すようにする。サインはもらわない。</p> <p>審査結果：説明文書用意のうえ、承認</p> <p>【MRI専用手台使用時における身体的拘束および脂肪抑制効果による学術研究】</p> <p>受付番号：24-2 頁数：6頁～14頁 (申請者：診療放射線照射主任 中原 一樹)</p> <p>申請者説明：関節リウマチ（RA）の重要な病態である滑膜炎性変化の画像診断法として、MRIは特に有用であると報告されている。しかし、患者の身体拘束による負担が問題である。</p>			

現在、MRIでの両手部同時撮像は腹臥位拳上位で施行しているが、検査時における患者の身体拘束の負担軽減を図るために、背臥位専用手台を考案・作成した。この試作手台の効果の判定を、バイタルサイン測定（体温・脈拍・血圧・呼吸数・血中酸素飽和度）および、アンケート方式にて従来法との比較検討を行う。

さらに、MRI専用手台を使用して、脂肪の共鳴周波数に一致した励起RFパルス（脂肪選択励起パルス）を印加して、脂肪の磁化のみを 90° 倒し、完全に横磁化を消去するために各軸にspoiler pulseを印加し、脂肪信号の磁化がなくなったところで、通常のパルスシーケンスにて信号を得るCHESS法と、 180° IRパルスを印加するSPAIR法、また、組織ごとの緩和時間の違いを利用する非選択的脂肪抑制法STIR法の画像データより、脂肪抑制効果による画質改善を視覚的に比較・検討する。

審査内容：

- ・患者にどのように説明するのか。
- 職員対象であり、患者に対してではない。
- ・倫理委員会としては問題ない。
 - ・アンケートのデザインをどのようにするかはまた別の話になる。

審査結果：上記意見はあったが、承認